

ASO 田園空間博物館

サテライトの取り組み



▲▼サテライトでの活動



二重峠石畳の散策

ASO 田園空間博物館は、平成 11 年から活動を始めて 19 年目となりました。

当初より、「わたしたちの住む地域の価値を再発見し、阿蘇を訪れる人々と一緒に、地域の新しい未来を創造していく」という理念に基づき、市民の皆さまと連携しながら様々な活動を行ってきました。その活動の柱となるのが地域の宝である「サテライト」です。

今回は、この「サテライト」についてあらためてご紹介したいと思います。

「サテライト」とは？

市民の皆さまが「地域の宝」として守り続けている自然、景観・風景、歴史・文化のことで、現在、90カ所(※)をサテライトとして登録しています。その中には、世界的に有名な中岳火口や草千里のほか、集落で大切に守り伝えられている氏神(神社)や湧水、また、神楽や祭り唄といった阿蘇の民俗芸能もあります。

この90のサテライト、そして、それらを守っている地域の方々との連携を深め、ASO 田園空間博物館では、サテライトの保全や活性化をサポートしています。

ASO 田園空間博物館と地域の方々との主な連携内容

① 維持管理のサポート

「サテライト応援事業」の実施や人的サポートを通じて、サテライトが将来に渡り維持管理できるよう応援しています。

② 行事やイベント実施のサポート

サテライトの行事やイベントを実施する際、企画から実施までのサポートや広告・PRの協力を行います。

③ 普及啓発のサポート

道の駅阿蘇を訪れた方へのご案内やウェブサイトを活用した情報発信を通じてサテライトのPRを応援しています。

④ 交流・連携促進のサポート

サテライトの管理者で組織する「サテライト協議会」や交流会、研修会などを通じて、サテライト同士の交流や連携を図り、より一層地域が盛り上がるよう応援しています。

※平成 24 年の九州北部豪雨でサテライトが一つ消失したため、町古閑牧野のサテライト No.91 (33鈺) に対してサテライト数が 90 カ所になっています。

新規サテライト紹介

町古閑牧野

平成30年3月サテライト登録(No.91)の「町古閑牧野」をご紹介します。

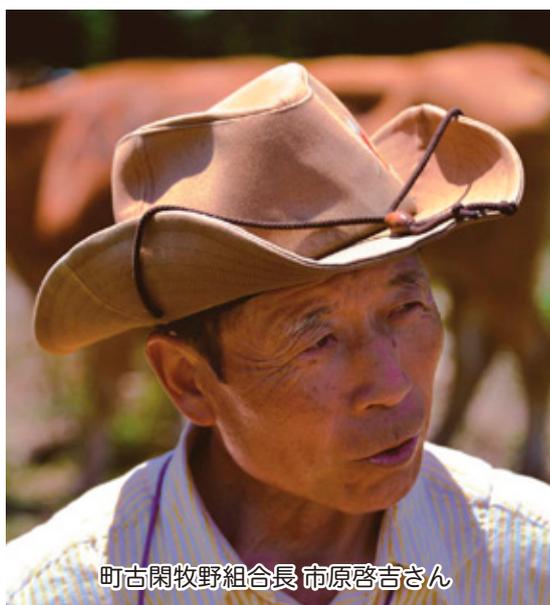
牧野組合長の市原啓吉さん(坂梨)にお話を伺いました。

町古閑牧野組合では、現在、32名の組合員がおよそ447戸ある牧野を管理しています。

高齢化が進み、組合員の平均年齢は70歳を超えてしまいましたが、最近、若い方や他地

域から来た新規就農者も僅かながら入会がありました。

牧野組合の取り組みは、放牧が主で、現在、約220頭所有している牛のうち、約70頭を放牧しています。その他、野焼



町古閑牧野組合長 市原啓吉さん

きや牧草の刈り取りなども行っています。さらに、3、4年前から、京都など県外の茅草職人へ牧野で採れた茅の出荷も始めました。

戦前は、200頭以

上の牛の放牧や軍馬の放牧を行い、また、昭和40年代までは野草も堆肥利用などで利用価値が高く、競い合って刈り取るなど、牧野の利用は非常に活発でした。しかし、近年では化学肥料の普及、高齢化やハウス栽培への移行、病気による牛の取引価格の下落への懸念などから、野草の刈り取りや放牧等の牧野の利用が減り、牧野組合員も年々減少しています。

牧野組合員の減少が顕著になったことから、18年前から町古閑牧野では、野焼きボランティアの受け入れを開始しました。

このボランティアとの交流は、野焼きだけにとどまらず、阿蘇の牧野に生える希少な山野草などについても、交流を重ねる中で教えていただきました。それがきっかけで、私自身も草花について調べるよう

になったわけです。

また、若い頃に渡米してアメリカの農業を目の当たりにした時、「牛を飼うのに対応できるのは、広大な草原を持つ阿蘇だけでは」と思い、現在まで農業を続けています。

このような、昔のことなどを若い人たちに伝えていきたい。できるだけ多くの人に牧野の景観を見て頂きたい。そして、阿蘇の宝として牧野の維持管理に協力して頂けるならば本当にうれしい。そう強く思っています。



町古閑牧野

引き続き、ASO 田園空間博物館では、サテライトに登録される「地域の宝」を募集しています。興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。私たちと一緒に元気な阿蘇を作っていきましょう。

問 ASO 田園空間博物館 ☎ 35-5077

現在、ASO 田園空間博物館は町古閑牧野と協力して、放牧をしていない冬～春先にかけてトレッキングやマウンテンバイクライドで有効活動する取組みの準備を進めています。今年12月から本格的に事業を実施する予定です。